(C)十勝毎日新聞社

白樺集中打

七回コールド勝ち

帯農に10―1

【Bブロック準決勝・白樺学園―帯農】白樺学園は３回２死三塁、宮坂拓実主将が左前へ適時打を放ち３―０とする（金野和彦撮影）

秋季高校野球 十勝支部予選

第4日の7日は帯広の森野球場でBブロックの準決勝を行った。午前の第1試合は夏の支部代表同士の対戦となり、白樺学園が七回コールドの10―1で帯農に圧勝し、19年連続22度目の代表に王手をかけた。白樺学園は8日午後の代表決定戦で、帯南商―帯工の勝者と戦う。第3日・6日はAブロックの準決勝2試合を行い、3点を先制された帯三条が逆転し七回コールドの12―3で帯緑陽を下した。帯大谷は序盤から打力を発揮して六回コールドの11―1で帯北に快勝した。帯三条と帯大谷は8日午前に代表決定戦で戦う。（小野寺俊之介、金野和彦）

三回打者10人猛攻

◇Bブロック▽準決勝（7日）

帯　　農　0000100―1

白樺学園　005203×―10

（七回コールド）

【帯】溝口、仁平―白幡

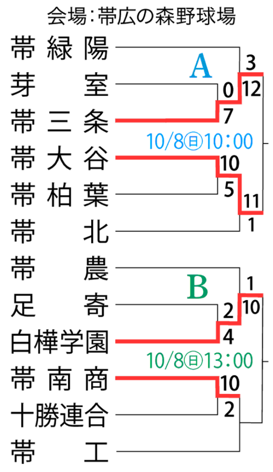
【白】宮坂、神谷、半澤―浅野

▽三塁打＝藤原（白）

▽二塁打＝福原（白）

白樺学園が集中打でコールド勝ちした。0―0の三回、川島、福原が連続四死球で無死一、二塁とし、藤原の適時中前打で先制。さらに久保が内野ゴロ、宮坂、浅野、上が適時打を放ち、この回打者10人の猛攻で計5点を挙げた。四回には藤原の適時三塁打などで2点を加え、六回には藤原の3打席連続適時打、半澤の犠飛などで3点を追加し、勝負を決めた。投げては先発の宮坂が5回1失点で試合をつくった。

帯農は五回、田村、松村の安打で1死一、二塁と好機を得て、村中の適時左前打で1点を返すも、その後は本塁が遠かった。守備は四死球が目立った投手陣が踏ん張り切れなかった。



帯大谷圧倒

帯北に六回コールド勝利

【Aブロック準決勝・帯大谷―帯北】帯大谷は２回１死、左前打を放った家次陽希（中央）が敵失の間に二塁を奪う好走を見せた（金野和彦撮影）

◇Aブロック▽準決勝（6日）

帯大谷　310133―11

帯　北　010000―1

（六回コールド）

【大】市村、渡邉―森浦

【北】吉田、岩井―池田

▽三塁打＝家次（大）

▽二塁打＝荒木（大）角玄、吉田（北）

序盤で主導権を握った帯大谷がコールド勝ち。初回、家次、糸瀬の連打などで無死満塁から渡邉の二ゴロが敵失を誘い先制すると、暴投、押し出し四球で3点を奪った。二回には鷲足、四回には渡邉の適時打で1点ずつ追加、五回には家次の適時三塁打などで3点を挙げてリードを広げた。先発の市村は5回1失点の好投、最後は渡邉が1回を打者3人で締めた。

帯北は二回、工藤の左前打、吉田の左中間二塁打で1死二、三塁と好機をつくり、池田の内野ゴロで1点を返した。守備は10四死球と3失策でリズムをつかめなかった。

【帯大谷】

		打	安	点	振	球
⑦	家　次	5	4	3	0	0
⑤	糸　瀬	5	2	0	0	0
⑥	鷲　足	3	3	1	0	1
⑨1	渡　邉	3	1	2	0	1
②	森　浦	3	0	0	1	0
⑧	荒　木	3	1	0	0	1
③	宮　浦	0	0	1	0	3
④	臼　井	1	0	1	0	2
①	市　村	2	0	0	0	1
H9	堀　田	0	0	1	0	1
犠盗併残失	34090	25	11	9	1	10

【帯北】

		打	安	点	振	球
⑥	村　瀬	3	0	0	0	0
⑨	角　玄	2	1	0	1	1
⑦	中　村	3	0	0	2	0
③	江　川	2	0	0	0	0
⑤	工　藤	2	1	0	0	0
①	吉　田	2	1	0	1	0
1	岩　井	0	0	0	0	0
②	池　田	2	1	1	0	0
⑧	坂　田	2	0	0	0	0
④	松　田	2	0	0	1	0
4	森　山	0	0	0	0	0
犠盗併残失	00123	20	4	1	5	1

	回	者	球数	安	振	球	責
市村	5	18	58	4	3	1	1
渡邉	1	3	13	0	2	0	0
吉田	5⅔	35	123	10	1	9	8
岩井	⅓	3	8	1	0	1	0

「韋駄天」家次の真価

○…50㍍5秒9の俊足を誇る帯大谷の〝韋駄天（いだてん）〟が真価を発揮した。

1番・左翼で出場した家次陽希（はるき、2年）は4安打3打点1盗塁。初回の第1打席は中前打で出塁し、すぐさま盗塁を決めてチャンスメーク。五回には右越え適時三塁打を放つと、中継が乱れた隙に本塁を突き、あっという間にダイヤモンドを駆け抜けた。

積極的な走塁が持ち味だ。象徴的だったのは二回の第2打席。左前に安打を放つと、左翼手のわずかなジャッグルを見逃さず、スピードを保ったまま二塁ベースに滑り込んだ。「常に次の塁を狙う」姿勢が相手守備のペースを乱した。

昨夏は2年生主体のチームで挑み支部予選で敗れた。「自分たちらしい野球で3年生の無念を晴らしたい。チームを勢いづけることが1番打者の役割」。打線をけん引する切り込み隊長が雪辱に燃えている。

次に生かして

帯北・丹代零知（たんだい・れいち）監督の話　序盤からミスが多く出てしまったが、1年生主体でまだ若いチーム。これを受け入れて次に生かせばいい。冬はフィジカル面の数字と向き合いつつ、人間力を高めていってほしい。

実力の差で負けた

帯北・角玄虎ノ丞主将（2年）の話　実力の差で負けた。多少のミスや失点はしょうがないと雰囲気良くプレーすることを心掛けた。冬場の練習ではヒットをつなぐ、打ち取った打球を確実にアウトにする力を身に付けたい。

片山が大暴れ

スランプ乗り越え2安打5打点

帯三条の四番・片山天晟（まのあ）主将（2年）が主砲の仕事を果たした。この日は2安打5打点の大暴れ。4―3と追加点が欲しい四回の第3打席は、1死満塁の絶好機で左中間を破る3点適時二塁打を放った。直前の打者が死球を受けて塁が埋まり、「ストライクが欲しいはず」と初球の甘い直球を見逃さず仕留め、「持ち味の逆方向への打撃を表現できた」と笑顔を見せた。

充実の秋を迎えている。1年時から高い打撃能力を見せていたが2年春からスランプに陥り、ここまで目立った成績は残せなかったが夏の大会後、毎朝5時半から自宅で中学3年の弟にバドミントンのシャトルを上げてもらい打撃練習。不調は力みと引っ張りの意識が原因と分析し、「脱力と逆方向への打撃」をテーマにバットを振り込んだ。第4打席には、あと1㍍で本塁打というフェンス直撃の二塁打も放ち、広角に打ち分ける打撃を発揮した。

新チームでは主将にも任命され、「チームメートに指示ができ、野球に対する姿勢が見本になる」と今村和彦監督の信頼も厚い。

代表決定戦は帯大谷との実力校同士の対戦。「やるべきことをやれば勝てる。勝ちに導く打撃をしたい」。頼れる主砲が道大会進出に向け奮闘する。

帯三条、帯緑陽に快勝

【Aブロック準決勝・帯三条―帯緑陽】帯三条は5回1死一、三塁で片山天晟が右越えの適時二塁打を放ち、11―3とリードを広げる（金野和彦撮影）

鮮やかに3点 先制も守れず

帯緑陽

○…帯緑陽は初回に小技を絡めて鮮やかに3点を先制するも、全員が公式戦初登板という投手陣が三、四回につかまった。杉﨑健監督は「初回はバントが一発で決まり良い形で入れたが、四球と守備の乱れが痛かった。投手を含め良い経験になった」と振り返った。

新チームは守備を中心に練習してきたが、勝負どころで2失策と力を発揮できなかった。投手3人をリードし、守備の要を担った捕手の田中天磨主将（2年）は「バッテリーを含め、冬で鍛えて1点を守り切る守備を目指したい」と巻き返しを誓った。

◇Aブロック▽準決勝（6日）

帯緑陽　3000000―3

帯三条　004530×―12

（七回コールド）

【緑】平尾、嶋﨑、堀―田中

【三】高城、古川―渋木、鳥海

▽三塁打＝高城（三）

▽二塁打＝片山2、東森、山田（三）

【帯緑陽】

		打	安	点	振	球
⑤	田　村	1	0	0	0	2
⑥	石　橋	3	1	0	0	0
③1	堀	2	2	0	0	0
②	田　中	3	0	1	1	0
⑧	高　嶋	3	0	1	0	0
⑨	仁　平	3	1	0	1	0
④	北　山	1	0	0	1	1
①	平　尾	2	0	0	1	0
1	嶋　﨑	0	0	0	0	0
3	鈴　木	1	0	0	1	0
⑦	鎌　田	2	0	0	1	0
H	小笠原	1	0	0	0	0
犠盗併残失	20032	22	4	2	6	3

【帯三条】

		打	安	点	振	球
⑧3	篠　原	2	1	0	0	3
④	小　林	2	0	0	0	1
①8	高　城	4	2	2	1	1
9	渡　邊	0	0	0	0	0
⑤3	片　山	3	2	5	1	0
⑥	嶋　野	4	2	0	0	0
⑨	東　森	3	2	2	0	1
7	小田島	0	0	0	0	0
⑦	上　田	2	0	0	0	1
H	竹　迫	1	0	0	0	0
1	古　川	0	0	0	0	0
②	渋　木	3	2	1	0	0
2	鳥　海	1	0	0	0	0
③7	山　田	2	1	0	0	2
R	鶴　野	0	0	0	0	0
犠盗併残失	33292	27	12	10	2	9

	回	者	球数	安	振	球	責
平尾	3	17	53	3	2	5	2
嶋﨑	2	17	53	8	0	3	8
堀	1	5	23	1	0	1	0
高城	5	21	76	4	3	2	2
古川	2	6	30	0	3	1	0